

いわせがわ  
岩瀬川単河川改良事業

受賞機関 宮崎県小林土木事務所

はじめに

岩瀬川は、九州で2番目の流域面積をもつ一級河川大淀川の支川の一つで、宮崎県の野尻町と小林市の境を流れる全長44.1kmの河川である。

今回、河川環境の保全・復元に取り組んだ野尻町の岩瀬川は、河床に熔結凝灰岩が露頭しており、希少植物カワゴケソウ科・オオヨドカワゴロモ（絶滅危惧1A類）の生育地となっている。

また、河床の岩盤に3～4mの落差があり、形状が不規則な幾筋もの滝が川面に創り出す景観は訪れた人に親しまれている。

ところが、近年、その岩盤の下層にある砂質層が流水によって吸い出され、この滝が年間1mの割合で上流へ後退を続けたため、オオヨドカワゴロモの生育環境が脅かされる状況になった。

このため、生育環境の保全等を目的として、早急に河川環境の保全と再生を図ることとなった。

事業概要

事業名：臨時単河川改良事業

河川名：1級河川大淀川水系岩瀬川

事業期間：平成9年度～平成13年度

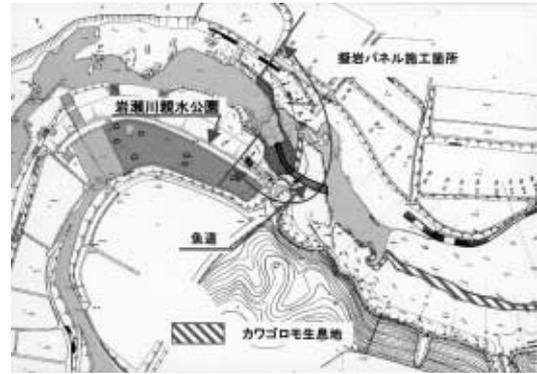
事業費：235百万円

事業の特徴

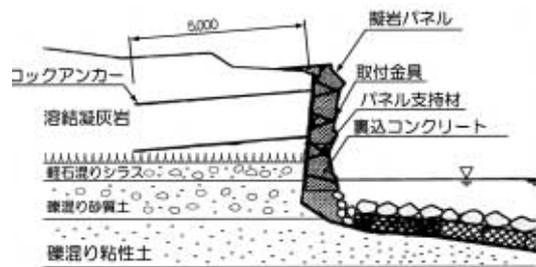
平成8年8月に、地域の代表者や各方面の専門家で構成した「岩瀬川工法検討会」を設立した。検討会では、「滝の安定化」と「河川環境の再生・生態環境の保全」を目的とした河川整備の方針を策定し、



河畔林の木陰を活かした魚道



平面図



擬岩パネル施工断面図

景観に配慮しながら、擬岩パネルにより後退した滝の復元と安定を図るとともに、河畔林の木陰を活かした魚道を設置する計画とした。

施工箇所の上流域にオオヨドカワゴロモの生息地があるため、施工は流速や水位の変動を極力抑え、生育状況の監視をしながら工期の短縮を図った。

また、模型の活用により、施工業者との意志疎通を図り、従前の滝のイメージの再生に努めた。

竣工後の追跡調査により、次の効果が確認された。

住民に親しまれる河川景観が再生され、町による川沿いの親水公園整備と合わせて、人と自然とのふれあいの場が創出された。

世界的にも貴重な植物の生育環境（カワゴケソウ科の世界の北限地）が保全された。

魚道の新設により、生物の生育環境の連続性が確保され、鮎の遡上が確認された。

さらに、オオヨドカワゴロモを保護するため、平成13年度には小林市及び野尻町において天然記念物に指定されたところである。